

# 2014下関未来大学

まちづくり・ひとづくり学科4コマ目

継続的・持続的なまちづくりを行うために③

コーディネーター、ファシリテーターの役割とテクニック（組織と地域マネジメント）

---

**NPO法人コミュニティ・コンサルタント理事・事務局長 岡本平和**

下関市立大学 本館 I-201にて  
2014. 7. 17(木) 18:30～

# はじめまして。 岡本平和と申します。

簡単に自己紹介をさせてください。

下関市の唯一のNPO／社会貢献活動の専門家。今年26歳です。

(まちづくり・NPO支援活動歴は、現在9年目の売出し中です。)  
現場意識の強いです。年間の相談件数は100件をゆうに超えます。

18歳の時に、「いつもと違う、出会いと体験がある。」ことを魅力に感じ、その楽しさを共有するために、若者ボランティア斡旋団体の立上げたのが始まり。  
21歳の時に、「市民活動支援補助金」の審査委員になった事で、全体的なケアが必要だと感じ、NPOの勉強を始めました。  
23歳の時に、専門性を評価され「しものせき市民活動センター」の嘱託職員に。そして昨年、「NPO法人コミュニティ・コンサルタント」を設立。

今日は、貴重な機会をいただいた事に感謝します。

「今日は来て良かった。」と思える時間を共有できるように頑張ります♪

# まちづくりで最も重要な要素。 それは人です。

今日は、まちづくりの現場で活躍する2種類の人材について紹介します。

## ・コーディネーター

—調整者。

## ・ファシリテーター

—促進者。

# コーディネーター（調整者）の役割。

その範囲内での、ほぼ全てをマネジメント（最適化）します。  
大きく3つの役割があると思います。

1. プラン - 全体の計画と共有。
2. リソース - 人材・資金・時間の調整。
3. サポート - その他、計画実行の補助。

調整していくために「交渉」と「共有」が主なしごとになります。

# コーディネーター（調整者）のイロハのイ。 キーマンやターゲットを想定する。

最適化を図るための調整に欠かせない「誰に？」「どうやって？」

誰に？

- ・ キーマンは、強い影響力のある人。
  - 決定権（組織的な権利と現場的な権利）を持っている人。
- ・ ターゲットは、受益者や受け取る人。
  - 参加者。出演者。出資者。状況に応じてさまざま。

どうやって？

- ・ 関心を推察する。
  - 受け取りたいと思うものしか受け取らない。

# コーディネーター（調整者）のイロハのロ。 構成を細分化して考える。

漏れが無いように多角的に判断する。基本は「内側」と「外側」。

例えば、広報(情報の共有)を細分化(内・外)して考える。

内側(例えば…年齢層が高い。自治体の人達。)

- 文書、文字は大きく。訪問や回覧板、掲示板を活用。  
内容は、事前に自治会長などに相談して了解を得る。

外側(例えば…下関市及び近隣市町の住民。)

- ネットの活用、ポスターやチラシ。市報、新聞、Jcom  
地域情報誌、会合に出席してPRなど。情報が自己満足になっていないか？幅広い老若男女、プロ、アマに  
内容を見てもらう。

# コーディネーター（調整者）のイロハのハ。 視覚化する。

伝えるための情報は、音だけでは不十分。要は、資料作成です。

- ・ データは雄弁に、語る。
  - 年代別の動向統計とかあれば最高です。  
やりたいようにやっているのではなく、最適な手段を  
求めていることを明確にもできます。
- ・ 図や表の方が伝わる人もいる。
  - 人により情報の入手方法に得手不得手があるようです。

# コーディネーター（調整者）の適性。

こんな人は向いているかもしれませんね。

几帳面。潔癖。心配性。完璧主義。論理的。  
人が好き。話好き。お世話好き。我慢強い。  
相手の立場に立てる。情報の検索力がある。  
博識。人脈豊富。不思議と人から好かれる。

…などなど。



# ファシリテーター（促進者）の出番。

新しい事をみんなで始めるときには、非常に有効的。

ファシリテーターの主な現場は、「会議」です。  
但し、既に決まっている物事を伝えるためのトップダウンの形式の会議では不要です。

多様な意見を集約し、討議や検討をし、合意形成、相互理解を求めるような会議で活躍します。昨今は、自由思想と個性の尊重の観点から理解し合ったり、合意を得ることは容易ではありません。

その容易でないゴールを踏むための支援者です。

# ファシリテーター（促進者）の役割。

会議で、相互理解や合意形成を成すための管理者です。  
大きく3つのことを管理します。

1. ルート - 目的の確認。方向性の明示。
2. マナー - みんなで取り組む風紀を守る。
3. フロー - 会議進行。意見の整理。

管理していくために「整理」と「確認」が主なしごとになります。

# ファシリテーター（促進者）のイロハのイ。 萎縮と威圧を取り除くする。

自由度の高く協力的な心理空間をセッティングする。

緊張を破壊する。

- ・ 席は自由席。角より円。
  - 上下関係などが無い状態。自主性や個の尊重。
- ・ アイスブレイク。
  - 積極的に話す風土や協力関係を打ち出すためのもの。
  - 初対面や上下関係などの緊張を破るためのもの。
  - ゲーム性があるものが一般的。
  - たくさん動くものかたくさん話すものベタ。

# ファシリテーター（促進者）のイロハのロ。 あくまでも中立性を担保し、決定権を持たない。

伝えるための情報は、音だけでは不十分。要は、資料作成です。

役割を宣言する。

- ・ **ファシリテーター宣言。**

公平に私利私欲私情無くゴールへ誘導するために機能すること、  
そのための機能を果たすための協力をお願いし、全員から了承  
を得る。

自己の常識に囚われない。

- ・ **自分の意見に誘導しない。**

常識は自己の体験の中で培われていくものなので、海のような  
広い懐と伝えたい内容が何かを吟味する。

# ファシリテーター（促進者）のイロハのハ。 確認して視覚化する。

標識と正しい記録は、争いを防ぐことができます。

目的を明記している案内板と、ルールが書いてある標識。

- ・案内板。

例えば「地域色を活かしたまちおこし企画の概要まで決める。」

- ・標識。

例えば「意見に勝ち負けを求めない。」

正しい記録の為に確認して書き示す。

- ・「今のは、〇〇ということですか？」

発言の真意や要約が必要。

# ファシリテーター（促進者）の適性。

こんな人は向いているかもしれませんね。

冷静。感情的にならない。落ち着きのある。  
勝ち負けにこだわらない。ユーモア。寛大。  
聞き役が好き。情報編集能力に長けている。  
慎重。権力に屈しない。自己主張がない。

…などなど。